

わが

「選ばれるまち 快適安心居住都市 いみず」を目指して

はじめに

射水市は、富山県のほぼ中央に位置しており、北は富山湾に面し、東西を富山市と高岡市という2大都市に隣接した面積109km²、人口約9万4000人の都市です。1級河川である神通川・庄川の間広がる広大な射水平野と南部の丘陵地で構成されており、半径約7kmのコンパクトな市域に、

関を有するなど、魅力ある資源が集積しています。

**多彩な観光資源を生かした
まちづくり**

本市を象徴する、①海や河川・**野が育む豊かな食**、②水辺の景観、③伝統ある祭りの3つの資源を柱とする「射水市観光・ブランド戦略プラン」に基づき、個々の地域資源を連携させ、全国へ発信していくよう継続的に取り組んでいます。

まず「食」では、富山湾から水揚げされる白エビ、ベニズワイガニをはじめとした海の幸、射水平野が育んだ米やタケノコ、梨、リンゴなど、四季折々の食材は全国の市場から高い評価を受けています。

また「水」に関しては、富山新港を中心とした一帯には、平成24

年9月に完成した日本海側最大の斜張橋である新湊大橋をはじめ、

初代帆船海王丸を保存公開している海王丸パークなど多くの観光スポットに囲まれています。加えて、「日本のベニス」とも呼ばれる新湊地区の内川沿いには、個性的な橋が架かり、多くの漁船が両岸に停泊するなど、懐かしい漁師町の風情が楽しめます。この美しいロケーションを生かしたテレビドラマや映画撮影の誘致にも積極的に取り組んでいます。

さらに、本市で長く引き継がれる伝統的な「祭」も多彩です。中でも毎年秋には新湊、海老江、大門と3地区の曳山まつりが行われ、豪華絢爛な曳山とその勇壮な曳きまわしは圧巻です。新湊曳山まつりは本年1月に全国公開された映画『人生の約束』の題材となりました。



映画『人生の約束』撮影の様子

「射水ベイエリア」を 全国にPR

本市では、新湊大橋を中心に東西埋立地から内川周辺を含む地域を「射水ベイエリア」と位置付け、魅力の発信とにぎわいの創出、大々的なPRに取り組んでおり、新湊大橋開通以降観光客は増加し続けています。

平成27年には国内最大級のヨットレース「タモリカップ」や海王丸パークをメイン会場に天皇皇后両陛下ご臨席の下「第35回全国豊



射水ベイエリアの中核 海王丸パークと新湊大橋

豊かな自然環境だけでなく、国際拠点港湾伏木富山港の中核である富山新港や北陸自動車道などの社会資本、富山県立大学をはじめ多くの高等教育・研究機

かな海づくり大会「富山大会」が開催されました。また前述の映画『人生の約束』が全国公開されたことで、射水ベイエリアの魅力をもさらに広くアピールできたと考えています。

この追い風を生かすために、『人生の約束』で使用されたセットを復元するとともにロケ地マップや案内看板を整備し、ロケ地めぐりツアーを企画・実施するなど訪れる方々に楽しんでいただけるようさまざまな仕掛けづくりに取り組んでいます。

さらに、新湊漁港では全国的にも珍しい「昼セリ」見学ができる観光コースを設けるなど、地域を挙げて新たな観光資源の開発にも取り組んでおり、観光客の皆さまに好評をいただいています。

今後も本市に「来てよかった」「また来たい」と思っていただけるよう、交流人口の拡大に向けてさまざまな施策を展開してまいりたいと考えています。

射水産サクラマス事業化に向けて

現在、本市では、採卵から成長育成までの養殖の過程をすべて市

内で行う「純射水産サクラマス」の事業化に取り組んでいます。

この事業は、市、堀岡養殖漁業協同組合、内水面の大門漁業協同組合および富山県農林水産総合技術センター水産試験所が連携し、市内を流れる庄川の伏流水を使ってふ化させたサクラマスの稚魚を海水で生育し加工・出荷するというもので、平成30年には約4万匹の出荷を目標としています。

そして、産学官金で構成される「いみずサクラマス市場化推進協議会」を発足させ、この中で射水産のサクラマスを使ったおもてなし料理メニューの開発やすべて射水の食材を使ったます寿司、サクラマスの「魚醬」の製品化などに取り組んでいるところです。

今後も地元産食材を生かしながら、付加価値商品を創出し、地域経済の活性化に取り組んでまいりたいと考えています。

おわりに

人口減少時代を迎え、本市でもこの克服と地域の活性化に積極的に取り組む、将来にわたって、活力に満ち、市民が夢と希望を持って地域社会の実現を目指して、平

成27年10月に策定した「射水市ひと・まち・しごと創生総合戦略」に基づいたさまざまな施策を行うことで地方創生の実現につなげていきたいと考えています。

本市の持つ強みや特徴を最大限活用し、地域産業活性化をはじめとした地域のしごとづくり、人を

呼び込む観光の振興や高等教育機関などと連携した若者定着促進などの新たな人の流れづくり、出産、育児、教育への支援など結婚から学びまでの環境づくりなどに重点的に取り組み、「選ばれるまち 快適安心居住都市 いみず」の実現を目指してまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 109km²
- ◆ 人口 9万4175人
- ◆ 世帯数 3万4210世帯

〔将来都市像〕豊かな自然 あふれる笑顔 みんなで創る さらさら射水（いみず）

〔まちの特徴〕コンパクトな市域に豊かな自然や港湾・鉄道などインフラ施設、商工業、高等教育機関など魅力ある資源が詰まったまち

〔市町村合併〕平成17年11月1日、新湊市、小杉町、大門町、大島町、下村が合併し誕生

〔特産品〕白エビ、ベニズワイガニを



射水市長
夏野元志



はじめとした海産物、かまぼこ、アユ、梨、柿、射水市産コシヒカリ、ヘチマ、タケノコ

〔観光〕海王丸パーク、新湊大橋、新湊地区内川周辺、新湊漁港（昼セリ）、太閤山ランド、射水市大島絵本館、竹内源造記念館

〔イベント〕やんさんまつり、越中だいもん風まつり、富山新港新湊まつり、花火大会、小杉みこし祭り、新湊・海老江・大門曳山まつり、全国絵本ミュージアム会議（9月11日開催）、全国銀絵サミットin射水（9月24日・25日）

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「笑顔があふれやすらぎのあるまちうしく」の実現に向けて

はじめに

牛久市は、都心から50kmほどの茨城県南部に位置し、本年5月にG7つくば科学技術大臣会合が開催されたつくば市とは、北側の境を接しています。

昭和41年に首都圏近郊整備地帯としての指定を受けて以来、首都圏のベッドタウンとして土地区画整理事業、民間宅地造成などの住宅建設が進み、人口が急増し、昭和55年には4万人、昭和59年には5万人を超え、昭和61年に市制施行となり、平成28年6月1日に市制施行30周年を迎えました。市制施行当時、5万2829人であった人口は、オイルショック、バブル経済とその崩壊など、激動する社会経済状況の中にあっても成長を続け、増加率はわずかになった

とはいえ、茨城県の多くの自治体が人口減少期に入った今日、なお増加傾向を維持して、現在は人口8万5000人に迫っています。

観光と産業

JR常磐線、国道6号水戸街道、圏央道をはじめとする広域交通ネットワークが充実している本市では、特に常磐線沿線には大規模な住宅団地が広がる一方、市の西側では茨城観光百選の一つ、牛久沼に接し、東部にも豊かな自然が残り、古くから米や野菜の生産を営んできた農村地域があります。全国的に進行している農業人口の減少や農業従事者の高齢化、後継者不足は本市も抱える課題であり、地域の農業を職業としてやりがいのある農業の振興のために牛久河童スイカ、牛久河童大根、

うしく河童米などのブランド化や、地場産品を学校給食食材に積極的に使用するなどの地産地消の推進に取り組んでいます。

また、耕作放棄地の解消などを目的に平成22年に設立した農業生産法人うしくグリーンファーム株式会社では、生産した小麦を学校給食に、ぶどうを牛久産ワイン「レガール」として販売するなどのほか、バイオディーゼル燃料の生産を行うなど、CO₂削減とバイオマス産業都市構想に貢献しています。

近年、本市の名前が全国に知られるものといえば、牛久大仏ということとなります。青銅製立像世界一としてギネス認定されている高さ120m、自由の女神の3倍の高さという牛久大仏は、最寄り圏央道ICから3分というアク

セスの良さから人気が高く、シャトーカミヤ、うしくかつば祭りと並ぶ観光の中心となっています。

活力あるまちの維持を目指して

（教育への取り組み）

市内において比較的新しく開発されたひたち野うしく地区においては、小中学校の規模が大きくなってきたおり、間もなく中学校の教室が足りなくなっています。これに対応するため、市として、従来からある学校を増築するか、新しく中学校を建設するかの選択を迫られ、昨年の市長選挙の争点になりました。

財政負担を重視して既存校の増築を主張する声もありましたが、私は、新しい中学校の建設を主張しました。子どもの時代は、一生の中で極めて重要な時代であり、子どもの育成環境をつくることは大人の生育環境に通じています。子どもが元気になるまちづくりこそが、まち全体を元気にする

ことにつながります。未来への投資として、子どもたちの生育環境整備は、苦しくてもやらなければなりません。幸い私の考えは、市民の多くの皆さまのご支持をいただいて当選し、現在急ピッチで学校建設へ向けての作業を進めています。

活力あるまちの維持を目指して 教育への取り組み②

現在も成長を続けるまち、牛久市ですが、住民の年齢構成を見ると、高齢化率が本年3月に26%を超え、2年前の全国平均と同程度まで上昇してきました。人口動態としては、自然増の幅が少なくなり、社会増によって市全体としての穏やかな増加を支えている状態



ギネスブックに認定された世界一の「牛久大仏」

したいと思いません。地域を元気づけることが、定住人口の増加をもたらし、市の経済規模の維持につながり、まちの活力を維持して

ですが、現状のままなら、近い将来に人口減少の時期を迎える予想しています。市内には学校新設が必要な地区がある一方で、少子化の進行により、児童・生徒数が大きく減少している地域もあります。茨城県南においても、小規模校の統廃合が進行中です。

しかし、私は小規模な学校には、小規模だからこそその良さがあり、これを生かした学校運営を続けていってほしいと思います。学校が頑張っていたと思います。学校が持つ、子どもを通じた保護者同士のつながり、地域のつながりを作り出す効果は重要であり、近接した地域にある保育園、小学校、中学校が、それぞれに連携を取ること、地域で子どもを育て、地域そのものも元気でいられるように

いくことになっていきます。

終わりに

私が昨年10月に市長に就任してから、8カ月が過ぎました。私は、本市を笑顔のまちにしたいと思いい、市民の皆さまに12項目の提案を掲げて市長になりました。そして、市民の皆さま、団体、組織など関係する方々と良好なコミュニケーションを通じて話し合いを行

い、みんなでまちづくりを進めていきたいと思います。紙幅の関係上この場で提案内容などをこれ以上説明することはできませんが、まだまだこれから、成し遂げなければならぬところが沢山あり、夢中で市政に取り組んでおります。全国の首長の皆さまにも、ご縁がありました折には、ぜひよろしくお願い申し上げます。

プロフィール

- ◆ 面積 58・92 km²
- ◆ 人口 8万4876人
- ◆ 世帯数 3万5230世帯

〔将来都市像〕笑顔があふれ やすらぎのあるまち うしく
〔まちの特徴〕東京都心から50kmという距離にありながら、豊かな自然と温和な気候に恵まれ、国道六号、圏央道などの広域交通ネットワークが充実している。常磐線沿線で今も人口増加が
続く稀有なまち



牛久市長
根本洋治



〔特産品〕牛久河童スイカ、牛久河童大根、落花生、ワイン
〔観光〕牛久大仏、シャトーカミヤ、小川芋銭記念館、牛久市観光アヤマ園、牛久自然観察の森
〔イベント〕うしく・鯉まつり（5月）、うしくかつば祭り（7月）、うしくWai Waiまつり（11月）、うしく現代美術展（11月）、牛久シティマラソン（1月）

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「笑顔が広がるまち 寝屋川」の 実現に向けて

はじめに

寝屋川市は、大阪府の東北部、淀川左岸に位置し、大阪市域の中心から約15km、京都市域の中心から約35kmの距離にある住宅都市です。24・70km²と施行時特例市の中で最も小さい市域面積の中に、京阪



市の木である桜の名所「打上川治水緑地」

電気鉄道、J R学研都市線といった鉄道、平成22年に開通した第二京阪道路をはじめとした高速道路、幹線道路などが通る交通の利便性に恵まれたまちです。

大阪市域に勤務する人々のベッドタウンとして発展してきた本市の人口は、昭和26年の市制施行時の約3万5000人から、高度経済成長期を経て急激に増加し、昭和50年には25万人を突破しましたが、急増による人口構成の影響などから、全国の動きよりも早く減少に転じ、現在は24万人弱で推移しています。

**暮らしが良くなったと
実感できるまち**

私は、平成27年5月の市長就任以来、「命を守る」ことを市政の基本として、「子どもを守る」「街を守

る」「生活（くらし）を守る」という視点から、施策・事業の優先順位を整理し、市民の皆さまに暮らしが変わったことを実感していただけるまちづくりを推進しています。

就任1年目の平成27年度は、これまでの本市の施策・事業を基本認識に照らして点検するとともに、新たな施策、追加を要する施策について検討する事業見直しを行いました。また、次代の本市を展望し、市民と行政が共有すべきまちづくりの指針となる「第五次寝屋川市総合計画後期基本計画」、人口減少に積極的に対応するための「寝屋川市人口ビジョン」および「寝屋川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定した年度でもあります。

それらを踏まえ、平成28年度は、「子どもを守る」施策として、深夜

防犯パトロール、青少年の居場所づくりのほか、一時預かり事業などの充実に向けた取り組み、「街を守る」施策として、快適で魅力ある住環境の整備や都市機能の強化を図るための道路整備事業や浸水対策事業、「生活（くらし）を守る」施策として、地域に身近な行政窓口であるシティ・ステーションの取り扱い業務の充実を図るなど、将来のまちの姿を見据えた本市の新時代の幕開けにふさわしい施策・事業を推進してまいります。

若者の力をまちの力へ

先述のとおり、人口減少とともに少子高齢化が進んでおり、本市の高齢化率は約27・8%となっています。この状況からも、人口減少抑制のために、若い世代の力を活用し、若者世代が住みたい、住み続けたいと思うまちを実現しなければなりません。

市内には大阪電気通信大学、摂南大学、大阪府立大学工業高等専門学校等の3つの大学等をはじめと



平成28年寝屋川市成人式の様子

平成25年度から本市の出身である大相撲の大関豪栄道関に「寝屋川市ふるさと大使」として就任していただき、本市のPR活動を行っています。また、平成28年の成人式には、本市出身で芥川賞を受賞された又吉直樹氏からのビデオレターを上映するなど、本市に住む若者たちに、より一層本市に興味・関心を持って

した多くの学校法人等があり、「学生のまち」という本市の特色を活用し、平成17年度から現在にかけて、8つの学校法人等と包括連携協定を締結しており、地域全体の教育・学術研究機能の向上を図るとともに、学生・生徒などの若い力をまちづくりにいかしています。

平成28年度からの新たな取り組みとして、「ねやがわ若者会議」を開催します。市内の中学生、高校生、大学生などから参加者を募集し、若者の視点から多くの意見を頂戴し、それらを本市の今後の施策に検討・反映できればと考えています。

平成25年度から本市の出身である大相撲の大関豪栄道関に「寝屋川市ふるさと大使」として就任していただき、本市のPR活動を行っています。また、平成28年の成人式には、本市出身で芥川賞を受賞された又吉直樹氏

ただく取り組みも進めています。若者会議では、本市出身の著名人の各界での活躍を知ることも含め、地域社会と自分自身の将来を照らし合わせて真剣に考えること、また、本市への愛着の醸成にもつなげてまいりたいと考えています。

魅力の再発見と「見える化」

本市では、平成20年4月に、自治の基本的な理念や原則を定めた「寝屋川市みんなのまち基本条例」を施行し、市民がまちづくりの主役であることを基本に、市民、議会および行政がそれぞれの役割と責任を果たし、協働のまちづくりを推進することとしています。

本市は、地域活動、自治会活動が活発であり、市民の自治会加入率は約90%となっています。そのような背景などから、年間を通してさまざまな市民参加型の行事・イベントが開催されており、地域活性化のための重要な要素となっていますが、一方で、実施主体やテーマが多様化・乱立しているところがあります。そこで、本市の魅力を見直すという視点から、1年を通じた取り組みとな

るよう、市の行事などの「見える化」の工夫を行い、市民の皆さまが分かりやすく、地域の良さをより実感することで、市民満足度の向上につなげていきます。今後さらに、行事・イベントのみにとどまらず、市の施策全般の「見える化」を図りたいと考えています。

おわりに

子どもから高齢者まで、あらゆる世代の市民の皆さまが私の生まれ育った本市を愛し、一人一人が夢や希望を持ち、いつまでも住み続けたいと思えるまちとなるよう、今後より一層、定住魅力・まちの魅力の強化と発信、住宅都市というイメージから脱したにぎわい創出や観光振興、地域産業の活性化などを目指した施策・事業を推進し、「笑顔が広がるまち 寝屋川」を実現したいと考えています。

プロフィール

- ◆ 面積 24・70km²
- ◆ 人口 23万8374人
- ◆ 世帯数 10万9004世帯

〔総合計画後期基本計画の目標〕笑顔が広がるまち 寝屋川
 〔まちの特徴〕市内を流れる一級河川が市の名称であるように、川との関係が深いまち

〔特産品〕大葉、甘藷、温州みかんジュース「鉢かつぎ姫」銘菓「鉢かつぎちゃ



寝屋川市長
北川法夫



ん物語、「大葉の里」(大葉ゼリー)、郷土銘菓「新寝屋川八景」
 〔観光〕菅島駅のくすのき、友呂岐緑地、ねや川戎、寝屋川公園、寝屋のまちなみ、成田山不動尊、淀川河川敷公園
 〔イベント〕寝屋川まつり、エンジヨイフェスタinねやがわ、エコフェスタ、農業まつり、寝屋川ハーフマラソン

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

地域資源を大切に心豊かに 暮らせるまちづくり

はじめに

高知県室戸市は、県都高知市の東方78kmに位置し、太平洋にV字型に突出した地形であり、室戸岬を中心に東西53・3kmの海岸線を有しています。面積の約87%を山林が占め、海岸近くでは室戸ジオパークの特徴である海岸段丘を見ることが出来ます。気候は年間を通じて温暖であり、平均気温は



土佐備長炭の炭窯

16℃、年間降水量は、200mm以上という、果実をはじめ農作物の栽培に適した地域であります。

昭和34年3月1日に、佐喜浜町、室戸岬町、室戸町、吉良川町、羽根村の5カ町村が合併し「室戸市」が誕生しています。

地域資源の ブランド化の推進

本市の貴重な資源として海洋深層水や土佐備長炭がございます。

まず海洋深層水に関しては、本市では、28年前より深海を流れる海洋深層水を取水しております。そして日本で初となる高知県海洋深層水研究所が設立され、その研究・開発に取り組んでいます。平成12年には、日本初の供給ターミナルとして「室戸海洋深層水アクアファーム」を設立し、現在数多

くの企業や個人に給水しています。給水された深層水は、飲料水をはじめ多くの商品に使われるとともに深層水プール「シレストむろと」などに利用されています。

そして、日本三大備長炭産地として土佐備長炭が復活しています。ウマメガシを材料とし、とても良質な備長炭を出荷しています。若い生産者も徐々に増えており、生産額は年間2億円を超えるようになりました。

これら本市の特産品は「道の駅キラメッセ室戸」などで販売されており豊富な野菜や新鮮な魚介類の販売などとともに売り上げの向上につながっています。

歴史や文化を 大切にすま

本市には1200年前、空海が



吉良川の町並み

修行したといわれる伝説の残る場所があります。また、藩制時代には網とり捕鯨が盛んであり、その後は遠洋マグロ漁業へと発展しています。また、室津港の普請奉行に就任し室津港を築いた一木権兵衛さんや凶作や不漁の続く中に飢餓に苦しむ民を救済した岡村十兵衛さんがいました。命を懸けて村人を守った偉人であり、今でも地域の人々に語り継がれ祀られています。

本市には現在も旧町村ごとに独自の歴史文化が息づいています。平成9年10月高知県で初めて国の

重要伝統的建造物群に指定された、古い町並み「吉良川の町並み」が残っています。また、国の無形民俗文化財に選択されている俄芝居があります。そして、紀貫之が都に帰るときに詠んだといわれる土佐日記には「まことにて名に聞く所、羽根ならば、飛ぶがごとくに都へもがな」の句碑が古の時を今に伝えていきます。

室戸世界ジオパークを 生かしたまちづくり

平成20年に室戸ジオパーク推進協議会を設立し、世界ジオパーク認定に向けた活動を始めました。室戸ジオパークの特徴は、地球のプレートとの動きと地震により新しい大地が生まれる最前線というところにあります。地球のダイナミックな活動と、そこで生きてきた室戸の暮らしがごさいます。平成23年9月、室戸ジオパークの活動が高く評価をされ、世界ジオパークに認定されました。平成27年には4年に1度の再審査が行われました。

これまで2回の世界ジオパーク審査を受けましたが、室戸ジオパークの特徴は人である、人びと

のつながりを大切にしているとの評価をいただいています。

今後とも室戸ジオパーク活動を、豊かな自然環境の保護や子どもたちの教育、ジオツーリズムの推進、地域の特産品の開発など地域の発展につなげていかなければならないと考えています。また平成27年4月には旧中学校校舎を活用した室戸世界ジオパークセンターがオープンし、1年目は10万人を超える入館者数となっています。目標は年間7万人です。室戸世界ジオパークセンターの目標を大きく上回っており、うれしく思っています。

おわりに

基幹産業の一つである漁業の低迷や若年層を中心とした人口の流出などを背景に人口減少と少子高齢化が進んでいます。そうした中で本市の課題である財政健全化や土地開発公社の借金処理、中山間地域の飲料水対策、防災行政無線の設置、市道整備、し尿処理施設の統合など多くの課題解決に取り組んでまいりました。市民の方々の願いは、働く場所。収入増につながる産業振興や企業誘致であり

ます。また子育て支援対策や健康で生きがいのある福祉サービスなどが求められています。これから市民の方々の思いを大切に、命を守る防災対策や信頼関係を大切にした「協働のまちづくり」を進めてまいります。私が常に思っ

いることは「室戸に生まれてよかった」「室戸に住んでよかった」「室戸に来てよかった」と言われるまちづくりであります。これらも多くの方々にそう思っていただけのように全力で市政運営に努めてまいります。

プロフィール

- ◆面積 248・18 km²
- ◆人口 1万4372人
- ◆世帯数 7743世帯

〔将来都市像〕室戸の自然や資源を生かした産業の振興と、これまで育んできた歴史や文化を大切に、健康で心豊かに安心して暮らせるまち

〔まちの特徴〕室戸世界ジオパーク、吉良川町並み、海洋深層水、ダルマ朝日・夕日など恵まれた観光資源を有し、ハウス園芸や定置網漁・キンメダイ漁が栄え、食に恵まれたまち

〔特産品〕海洋深層水、土佐備長炭、びわ、ポンカン、やまもも、なす、ピーマン、すじ青のり、とこぶし、金目鯛、さば、ぶり、きゅうり、西山きんととき



室戸市長
小松幹侍



羊、キラ坊スイカ、千両

〔観光〕室戸世界ジオパークセンター、室戸岬灯台、空海修行の地、吉良川まちなみ館、室戸ドルフィンセンター、海の駅「とろむ」、道の駅「キラメッセ室戸」、シレストむろと、室戸岬夕陽ヶ丘キャンプ場、鯨館、室戸岬展望台

〔イベント〕室戸ジオパークトライアスロン大会、春の観光開き、吉良川まちなみひなまつり、四十寺山ハイキング、610（むろと）の日の行事、シツトロト踊り、ふるさと室戸まつり、室戸岬健康マラソン大会、室戸市産業祭、室戸岬灯台まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。